

# 東光寺だより

## 脚下照顧(きゃっかしょうこ) 続き

前回はキチンと揃えられた履物を見る側から考えましたが、実は他人のためではなく自分のためにそろえて脱ぐわけですね。

心が落ち着いている時は自分を客観的に見ることができます。舞い上がっているときは己の姿を見失っています。靴をそろえて脱ぐところではありません。「看脚下」足元を見るとは自分の立っている土台である足の状態(心の状態)を見ることなのです。

世間には「足元を見られる」という言葉がありますが、相手はいつも私の足元をみているんです。(本来の意味とちょっと違いますが・・・)足元でその人の人となりもわかります。「靴は口ほどにものをいい」なのです。きれいに磨きあげられた靴を脱ぐ時は必ず気を付けてそろえておきます。靴の履き方、脱ぎ方でその人の生活態度がわかるのです。



また、靴やスリッパの脱ぐ方向が問題です。脱いだスリッパや靴は、今度は次に履く人のため、履きやすいように置くことです。次に履くのは自分であれ、他人であれ履きやすい方にするのがマナーです。

誰でも用を足すときは急を要するものですが、終われば心穏やかに落ち着いて今度履く人のことを考えるだけの心の余裕もあるはずです。

「看脚下」「脚下照顧」とは自己中心に生活している我々に他人を思う心と呼び戻す大切な言葉でもあるのです。

## 東光寺の裏山に今年も咲いた・・・



ササユリ(やまゆり)日本特有の百合



ホタルブクロ キキョウ科の多年草



放生池の睡蓮

## 今月の生け花

華道 東山流 師範 東光寺寺庭 鷺見千恵子



令和4年6月15日

文責 東光寺 住職 鷺見邦隆